

ライチ便り No. 58

～福岡広州ライチ倶楽部会報 2024年2月号～

<http://lychee-club.jp/>

「一月は行く、二月は逃げる」と言われますが、ほんとうに時間が飛ぶように過ぎていきます。暖冬で、梅や桜のたよりが例年よりも早く届くことも、その一因かもしれません。田舎住まいの我が家の周辺では、もうつくしも生えています。

冒頭の諺は「…三月は去る」と続きます。年度末を迎えるこの時期、ますます忙しくなりますが、皆さまどうぞ健康第一で、元気に新年度を迎えましょう。

今回は「^{はないち}広州の花市」を特集します

三月になり、いささか時期がずれてしまいましたが、今回は広州で毎年春節前夜に行われる「花市」についてご紹介します。

南国広州は「花城」とも称され、一年中色鮮やかな花々がたえません。広東、香港、マカオ地方では、毎年旧暦の正月——春節の前夜には市内幾つもの会場でたくさんの花を売買する「迎春花市」が開かれ、街中が花々とそれを求める人々でうずまります。その賑わいは、福岡のドンタクに匹敵するほどで、2007年には広東省の無形文化財に指定されました。



花市の歴史

広州の花市の起源は明朝初頭、道教寺院の縁日に遡ると言われています。毎月四のつく日に縁日が開かれ、大道芸なども演じられて賑わいました。清朝中期には広州の花市は、城門付近から城内へと移り、花の種類も、多様化しました。辛亥革命後には商業の発展に伴い、いっそう盛んになりました。

年に一度の大晦日の「迎春花市」は 1860 年代に始まり、年越しの夜を花市で飾る「年宵市」とも呼ばれるようになりました。この頃には花以外に骨董や雑貨、食べ物の店も出て賑わいました。

1949 年中華人民共和国成立後は、毎年春節前の旧暦 12 月 28 日から大晦日まで続くようになり、混雑を避けるために、開設場所も増やされました。その後も時代の様相を反映させながら、絶えることなく脈々と続いてきました。

1980 年代になると、「改革開放」に伴い、西洋の花が次々と入ってきて花市をいっそう盛り上げました。それまでは大晦日に花市が終わると、売れ残った花は全て廃棄されていましたが、2000 年、越秀区では花農家を説得して買い取り、売れ残った花を高齢者福祉施設にプレゼントしました。このことが広州の多くの青

年ボランティアに支持され、後には他地域にも広がって、200 年以上続いた「大晦日に多量の花を捨てる」という悪習が改められたのです。

2008 年には初めて越秀花市がオンライン化され、全国に拡がりました。またチャリティ販売や、大学生花店なども現れました。

今日の迎春花市

社会生活が豊かになるにつれて、花市の規模は年々大きく華美になり、花の種類も出店の数も増加の一途をたどっています。



数多くの花々の中で、金柑、水仙、桃の花は広東地方で正月に欠かせない、伝統的な花材です。金柑は、発音が「吉」に通じるので縁起が良く、財運を意味し、水仙は富貴吉祥のシンボルとされ、桃の花は幸せな結婚——家庭運を意味するのですが、金柑や桃は、丁度クリスマスのもみの木のように、根元から切り出したものが売られ、抱えて歩いている人の姿がよく見られます。また金魚や、「幸運が巡ってくる」という吉祥のかざ車も人気です。



2024 年は「1 区 1 花市」の方式で行われ、市内 11 か所の会場に昨年より 68%も多い 3608 もの出店が並び、人出は約 632 万で、前年比 61.22%増、売り上げは 2 億 2300 万元 (44 億 6000 万円)で、前年の 54.86%増とのこと。一方で、伝統的な味わいが次第に薄れてきたとも言われています。

美しく賑やかな広州の「迎春花市」、いちどリアルに体感したいものですね！

日本語弁論大会の福岡市長賞受賞者が福岡にやってきます

1 年ほど前に在広州日本総領事館主催で行われた日本語弁論大会の優勝者、黄佳琪さん(広東工業大学)が、3 月下旬に来福します。福岡広州ライチ倶楽部で、ささやかな歓迎会を行いたいと思っていますので、ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

日時 2024 年 3 月 22 日(金)19:00～

場所 検討中

希望者は 090-0975-0960(奥田)までご連絡ください。

* 当倶楽部の HP と各種 SNS を開設しています。是非アクセスしてみてください。

* 会費未納の方は、今年度会費の振込をお願いします。個人：3000 円 団体：一口 10000 円

* 会報を送付するのは電子メールが便利です。メールアドレスをお持ちの方は是非お知らせください。